

## 2022 年度実施概要

学校名

山形県立加茂水産高等学校

採択活動名

海をテーマに地域と連携・活性化

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 地域学習 津波防災・減災学習	1 学年	総合的な探求
2. 海をテーマに地域と連携・活性化 (SDG11)	3 学年	課題研究
3.		

取り組みの概要

## 1. 地域学習 (1 学年)

- ・加茂地区の歴史学習 鶴岡市史編さん委員より北前船・漁業で栄えた加茂地区の歴史や業績を残した偉人について学ぶ。また、加茂まち歩きガイドの方々に加茂町内のガイドをお願いし、史跡や名所をめぐり学習し、各自まとめ、発表会を実施する。
- ・津波防災・減災学習 鶴岡市防災安全課より講師を招き、ハザードマップを使用し、加茂地区の防災・減災計画を学び、災害を生き抜くために必要な知識と技能を学ぶ。

## 2. 課題研究 (3 学年)

テーマ 「海をテーマに地域と連携・活性化」 海洋技術科 3 名

目的 海離れ・魚離れの現状を改善し、子供たちの海への関心を高め海洋教育を普及・促進し、加茂地区の活性化を目指す。

仮説 加茂地区が持続可能な社会を形成していくためには、「渚の交番」(日本財団)と連携し、海洋教育を促進し、海や魚に興味を持つ子供たちを増やし、加茂地区に新たな事業(産業)に取り組む人材を育成することが必要。

活動内容 ①加茂地区の現状・歴史を調査する。②全国の渚の交番について状況を確認する。③海洋教育及び山形県の海洋教育の状況を調べる。④渚の交番で行う学習プログラムを考案する。

結果・考察 加茂地区は、人口減少・漁獲量の減少が顕著である。このままでは、地域が衰退することが予想される。かつては、北前船や漁業で繁栄していた。活性化するためには、地域の特性を生かした、「海業」に取り組む必要がある。そのためには、来年度開設される「渚の交番」を活用した、海洋教育プログラムを作成し、小学生を対象に海洋教育を実施することが大切である。今回学習プログラム「海」「漁業」「魚」「船」について作成に取り組んだ。(未完成)また、フィールドワークについても、実施可能なテーマを検討してみた。

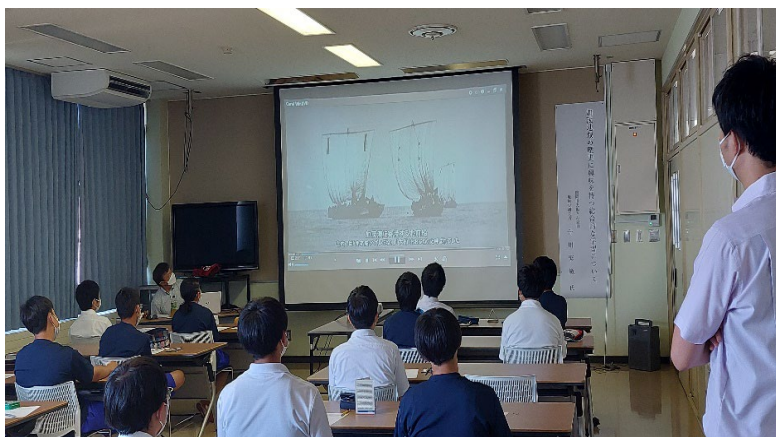
活動中の写真を 2~3 枚以上、画像ファイルにてご提出をお願いします。

Word に貼り付けた場合も 元データの画像ファイル を提出してください。

フォルダにまとめ、ファイル名をどんな活動をしている際の写真なのかわかるよう変更してください。

フォルダ名は「2. 実施概要\_写真\_〇〇学校」としてください。

ご提出いただいた写真は web サイト等で使用いたします。肖像権、著作権等にご留意ください。



地域学習 加茂地区の歴史（北前船寄港地）



地域学習  
加茂まち歩き（少林寺山門）



加茂まち歩き（春日神社にて地元ガイドによる説明）



課題研究 加茂コミセンにて加茂地区の現状調査



# 海をテーマに加茂地区と連携・活性化



「海を守る人づくり」 Protect the sea

海洋技術科 航海系 大八木 天孔  
加藤 祐希  
大塚 耀世

## 目的

海離れ・魚離れの現状を改善し、子ども達の海への関心を高め海洋教育を普及、促進し 加茂地区の活性化を目指す。

## 調査方法

- ・書籍、インターネットによるデータ調査及び加茂町歩きへの参加
- ・地域史研究者 升川繁敏氏による地域学習への参加
- ・加茂地区自治振興会事務局長 佐藤祥子さんへの聞き取り調査
- ・山形県海洋教育研究会誌、エコ・リンクやまがたの資料調査
- ・12月ユネスコスクール東北ブロック大会参加・発表し参考意見を得る

## 仮説

加茂地区が持続可能な社会を形成していくためには、渚の交番（日本財団）と連携し、海洋教育を促進し海や魚に興味を持つ子供たちを増やし、加茂地区の新たな事業（産業）に取り組む人材を育成することが必要。

## 活動内容

加茂地区自治振興会事務局長への聞き取り  
加茂地区の現状や、今後の活動について調べる事が出来た。



加茂地区街歩き学習

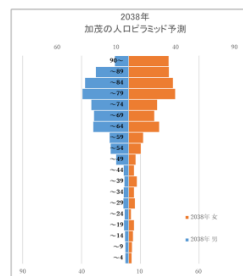
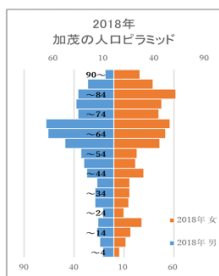
加茂地区の歴史について学ぶことが出来た

ユネスコスクール東北ブロック大会への参加・発表  
多くの参考意見を得ることができた（宮城教育大学）



## 加茂地区の現状 令和4年

人口 924人  
（小学生 28人・中学生 16人  
・高校生 18人）  
H10年の人口 1873人



高校生のうちで水産高校生は0人。

人口減少と高齢化が進んでいる。  
逆三角形で、過疎化が進み、更に高齢者中心の町になってしまいます

協力者：加茂地区自治振興会事務局長 佐藤祥子さん  
地域史研究者 升川繁敏さん  
参考資料：山形県海洋教育研究会誌  
エコ・リンクやまがた 渚の交番事業計画書



## 海離れを改善するための取り組み

### 1. 海洋教育

海洋教育とは

- ・海に親しみ 海を知ること、
- ・海を守り 海を利用すること

海洋教育の基礎理念

海と共に生きること（海との共生）を基礎理念とする、初等、中等教育段階における海洋に関する教育

海洋教育の具体的な内容

- ①海に関する災害の予防
- ②海洋という国土の保全
- ③海洋資源の利用、活用
- ④海洋産業（水産業）の育成
- ⑤海洋環境の整備、海洋生態系の保全
- ⑥海洋に関する文化、芸術の育成



2021 United Nations Decade of Ocean Science for Sustainable Development 2030



### 2. 渚の交番プロジェクト

渚の交番重点テーマ

- ①次代を担い地域を支える人材の確保
- ②海洋教育の促進
- ③海離れの改善etc...

渚の交番の全国の分布  
全国の渚の交番は現在11件  
加茂が12件目となる

渚の交番の分布図→



### 3. 海洋教育プログラム

座学 ①海 ②魚 ③漁業 ④船舶  
フィールドワーク

- A 磯場の潮だまりで生物採集
  - ・採集した生物の調査
- C 水産高校の施設見学
  - ・栽培棟の大型水槽、航海計器実習室、食品製造実習室、機関工場の見学

別資料参照

- B マリンスポーツにチャレンジ
  - ・スイミング、プールや海でのシュノーケリング、カヌー・ヨット、磯釣り
- D カッター乗艇・曳航して庄内海岸見学

## 結果・考察

加茂地区の現状は、人口減少、漁獲量の減少が顕著である。このままでは限界集落となってしまう、その先に待ち受けているのは更なる地域衰退である。かつてのように、交易の場や漁業の発展は難しく、新たな事業の拠点地域として海洋教育の普及に取り組んでいかなければならない。そのためには、渚の交番（日本財団）との協力や海洋教育プログラムを通して、いまを生きる子供たちの海への関心を高め、加茂地区の海業に取り組む人材を育成していくことが、今後の加茂地区の活性化に繋がると考える。

※海業とは、水産、観光、飲食業など、海に関係する地域資源を生かす産業

海業としては、鶴岡市食文化創造都市・日本遺産北前船寄港地（加茂地区の史跡）・加茂水族館・湯野浜温泉を活用した集客と協和丸のベニスワイガニのレストラン・販売などの取り組みにより、加茂地区を観光地化し、庄内浜の地魚を提供することによる6次産業化に取り組むことが考えられる。

## 今後の課題・取組

学習プログラム（座学）

海、魚、漁業、船舶、それぞれのプログラムを完成させる。

学習プログラム（フィールドワーク）

- ①本校を活用してできるプログラム完成
- ②加茂水族館を活用してできるプログラム作成
- ③水産研究所を活用してできるプログラム作成
- ④加茂地区自治振興会を活用するプログラム作成
- ⑤他団体を活用してできるプログラム作成



R4.1.25 加茂水産高校 ユネスコスクール キャンデイト校 承認